

I 弱視生のiPad活用についての試行(1)

1. 生徒の実態

- 。 中学部
- 。 弱視

2. 目的

弱視生が遠距離の板書の文字をiPadで読むことができるか。また、近距離で拡大読書器として活用できるかを試行する。

3. 利用機器など

- 。 iPad2
- 。 フレキシブルアーム
- 。 6倍単眼鏡
- 。 レンズケース

4. 使用アプリ

- 。 カメラ

5. 経緯・試行経過

弱視児・生にとっては遠方の黒板の板書の情報を得るには単眼鏡を利用しているが、なかなかスムーズに情報が入ってこない。より容易に黒板の板書の情報を得るためにiPadの活用を試みた。

a. 遠距離での試行

黒板から3.5メートルの距離でiPad(横長)に6倍の望遠レンズの有無で黒板の文字を見もらった。

結果

- ・ 6倍の望遠レンズあり

文字

3文字程度画面に入る

白黒反転

必要でない

- ・ 感想

iPadを動かすことが多くなり面倒

- ・ 6倍の望遠レンズなし

文字

7文字程度画面に入る

白黒反転

必要でない

- ・ 感想

ピンチアウト、ピンチインをすると見やすく、きれい

b. 近距離での試行

英語の辞書をiPad(横長)の下に置き、白黒反転の有無で読んでもらった。

結果

- 文字
辞書の全画面が入る
白黒反転
必要でない
- 感想
ピンチアウト、ピンチインをすると見やすい



6. まとめと課題

対象生徒は画面をピンチアウトして見やすい大きさで見れる。また画像として残せるため絶賛していたが、iPadを動かすと少しの間、手ブレが出てくるので見にくくなってしまふことがある。